

家庭用ミシン EL130シリーズ

取扱説明書

●本書を読んでから製品を使用してください●

本書は、なくさないように注意し、いつでも手にとって
見ることができるようにしてください。



brother

はじめに










この度は本機をお買い上げいただきまして誠にありがとうございます。
お使いになる前に「安全にお使いいただくために」をよくお読みのうえ、この取扱説明書をご覧になって、各機能や正しい使い方を十分にご理解のうえ末永くご愛用ください。
また、お読みになった後は保証書とともにお使いになられる方がいつでも見られるところに必ず保管してください。

安全にお使いいただくために

この取扱説明書および本機に使われている表示や絵文字は製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防ぐためのものです。
その表示や意味は次のとおりです。




 警告	この表示を無視して誤った使い方をする、人が死亡または重傷を負う危険が想定される内容を表しています。
 注意	この表示を無視して誤った使い方をする、人が傷害を負う危険が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

本書で使用している絵文字の意味は次のとおりです。











- | | |
|--|---|
|  特定しない禁止事項 |  特定しない危険通告 |
|  分解してはいけません |  感電の危険があります |
|  水に濡らしてはいけません |  火災の危険があります |
|  特定しない義務行為 |  やけどの危険があります |
|  電源プラグを抜いてください | |

この製品を安全にお使いいただくために、以下の事柄を守ってください。


















⚠ 警告

 	一般家庭用電源AC100Vの電源以外では、絶対に使用しないでください。 火災・感電・故障の原因となります。
	以下のようなときは電源を切り、電源プラグを抜いてください。 火災・感電・故障の恐れがあります。 <ul style="list-style-type: none">・ミシンのそばを離れるとき・ミシンを使用したあと・運転中に停電したとき












⚠ 注意

 	延長コードや分岐コンセントを使用したたこ足配線はしないでください。 火災・感電の原因となります。
 	濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。 感電の原因となります。
	電源プラグを抜くときはまず電源スイッチを切り、必ずプラグの部分を持って抜いてください。電源コードを引っ張って抜くとコードが傷つき、火災・感電の原因となります。
 	電源コードを傷つけたり、破損したり、加工したり、無理に曲げたり、引っ張ったり、ねじったり、たばねたりしないでください。また、重いものを載せたり、加熱したりすると電源コードが破損し、火災・感電の原因となります。 電源コードまたは電源プラグが破損したときはミシンの使用をやめてお近くの販売店またはプラザーのサービスステーションにて修理をお受けください。
	長期間ご使用にならないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。 火災の原因となります。
 	直射日光の当たるところや、ストーブやアイロンなどのそばなど温度の高いところでは使用しないでください。ミシンの使用温度は0 ~ 40 です。 ミシン内部の温度が上がったり、本体や電源コードの被膜が溶けて火災・感電の原因となります。

▲ 注 意

 	スプレー製品などをご使用の部屋ではご使用にならないでください。 スプレーへの引火、または火災の原因となります。
 	ぐらついた台の上や傾いたところなど、不安定な場所には置かないでください。 バランスがくずれて倒れたり、落下などしてけがをする原因となります。
 	本機の換気用の穴をふさがないでください。 換気用の穴は、必ず壁から30cm以上離してお使いください。また、換気用の穴に糸くずやほこりがたまらないようにしてください。 火災の原因となります。
  	本機の上に花瓶や水の入った容器を置くなどして、本機に水をこぼさないでください。 万一、内部に水などが入った場合は、電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店またはブラザーのサービスステーションにご連絡ください。 そのまま使用すると火災・感電の原因となります。
  	換気用の穴や内部に異物を入れたり、ドライバーなどを差し込まないでください。 高圧部に触れて感電の恐れがあります。 万一、異物が入った場合は、使用をやめてお近くの販売店またはブラザーのサービスステーションにご連絡ください。
	本機の重さは約4.3kgあります。 本機を持ち運びする際は急激または、不用意な動作をしないでください。 腰や膝を痛める原因となります。
	本機には取扱説明書に記載されている正規の部品をご使用ください。 他の部品を使うと、けが・故障の原因となります。
	お客様ご自身での分解、修理および改造は行わないでください。 火災・感電およびけがの原因となります。 指定以外の内部の点検・調整・清掃・修理は、お近くの販売店またはブラザーのサービスステーションにご依頼ください。
	取扱説明書に記載されている整備を行うときは、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。けがまたは感電の原因となります。
	ランプを交換をするときは、ガラスの部分が冷えてから行ってください。 やけどの原因となります。

⚠ 注意

	ミシン操作中は、針の動きに十分注意を払ってください。また、針、プーリー、天びんなどすべての動いている部品に手を近づけないでください。けがの原因となります。
	縫製中、布地を無理に引っ張ったり、押ししたりしないでください。けがの原因となります。
	曲がった針は絶対に使用しないでください。針が折れてけがの原因となります。
	万一、本機を落としたり、破損したり、故障したりした場合は、ただちに使用をやめてお近くの販売店またはブラザーのサービスステーションにご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。
 	万一、煙が出ている、変な臭いがする、異常音がするなどの状態のときはすぐに電源プラグをコンセントから抜いてお近くの販売店またはブラザーのサービスステーションにご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。お客様による修理は危険ですから絶対にしないでください。
	本機が入っていた袋は、お子様がかぶって遊ばないように、お子様の手の届かないところに保管するか廃棄してください。かぶって遊ぶと窒息の恐れがあります。
 	お子様の玩具としてご使用にならないでください。お子様のご使用になるときや、お子様の近くでご使用されるときは、お子様がけがをしないよう充分注意を払ってください。
	針の下に指などを入れないでください。ケガをする場合があります。
	上糸、下糸等に関する操作については、取扱説明書の指示にしたがって正しく行ってください。取り扱いを誤りますと、縫製中、糸絡み等が発生し、針が折れてけがをする恐れがあります。

このミシンは、日本国内向家庭用です。
仕様および外観は改良のため、予告なく変更することがありますので、ご了承ください。

目次

布地と糸と針の選択早見表	2
ぬい方早見表	2
付属品	3
別売り	3
仕様表	3
各部の名称	4

ぬう前の知識

電源コード	5
模様選択ダイヤル	6
ブーリー	6
上糸調子ダイヤル	7
押えレバー	7
スタート/ストップスイッチ	7
スピードコントロールレバー	7
返しぬいレバー	8
返しぬいの仕方	8
電源周波数の切換え方法	8
補助テーブルのセットの仕方	9
フリーアーム	9

糸の通し方

ボビンの下糸巻き	10
下糸のセット	12
上糸のかけ方	13
糸通し装置の使い方	15
下糸の引き出し方	15

ぬってみましょう

基本操作	16
角をぬう場合	17
カーブをぬう場合	17
段部をぬう場合	17
厚地をぬう場合	17
薄地をぬう場合	17
糸調子	18
押えの付け替え方	18
裁ち目かがり押えの使い方	19
ボタン穴かがり押えの使い方	20
ボタン穴かがり微調節ねじ	21
片押え(別売)の使い方	22
まつりぬい押え(別売)の使い方	23
片押え(別売)の取り替え方	23

ミシンを大切に

針の交換	24
ランプの交換	25
お手入れ	26
トラブルチェック	28

布地と糸と針の選択早見表

布地の種類	普通地			薄地			厚地			のびる布地		ほつれやすい布地			ステッチ糸の場合	
	ブロード	タフタ	ギャバジン	ローン	ジョーゼット	ポーラ	デニム	コデュロイ	ツイード	アイロン	ジャージ					
糸種類	カタン系	合繊系	絹系	カタン系	合繊系	絹系	カタン系	合繊系	絹系	二用ット系		カタン系	合繊系	絹系	合繊系	絹系
糸太さ	60 80	60 80	50 80	60 80	60 80	50 80	40 50	50	50			50 80	50 80	50 80	30	30
針太さ	11~14			9~11			14~16			ゴールド針 11~14		9~14			16~18	

注記：1. 上の表を参考にして正しい針と糸を選択してください。
2. 上糸と下糸は同じ物を使用してください。

ぬい方早見表

模様の種類	直線			三重ぬい	裁ち目 かがり	ジグザグ 三重ぬい	ジグザグ		まつり ぬい	裁ち目 かがり	ボタン穴 かがり		
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	b	ac	d
選択模様													
押え記号	J				G	J			L	J	A		
主な用途	薄地・普通地	普通地・厚地	ファスナー付け	普通地 （ぬい目をしようぶにしたとき）	地ぬい	裁ち目かがり	飾りぬい	裁ち目かがり アップリケ パッチワーク その他	まつりぬい	裁ち目かがり （のびる布地）	ボタン穴かがり		

<L>押え(別売)は、部品コードX59372-051をご使用ください。

ファスナー付けには、<I>押え(別売：部品コード103561-002)をご使用ください。

▲ 注意

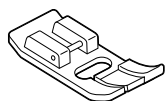
押えは各模様に適した押えを使用してください。押えをまちがえますと、針がぶつかり、折れたり、曲がったりして、けがの原因となります。

付属品

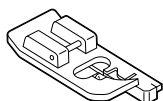
付属品は、必ず本機専用付属品をご使用ください。

付属品がすべてそろっているかお確かめください。

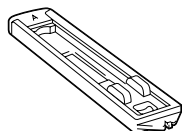
付属品が足りないときや破損しているときは、お買い上げの販売店にお問い合わせください。



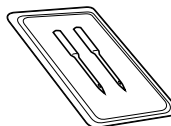
ジグザグ押え (1個)



裁ち目かがり (1個)

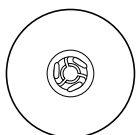


ボタン穴かがり押え (1個)



ミシン針

(黄 針...#11 2本
赤 針...#14 2本
緑 針...#16 1本)



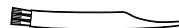
糸こま押え (大)



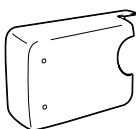
ポビン (3個)



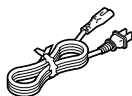
リップー



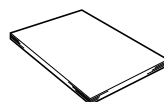
ミシンブラシ



本体カバー



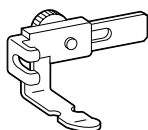
電源コード



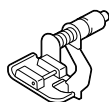
取扱説明書

ジグザグ押え、ポビン1個は最初にミシンにとりつけてあります。

別売り



片押え (1)
部品コード 103561-002

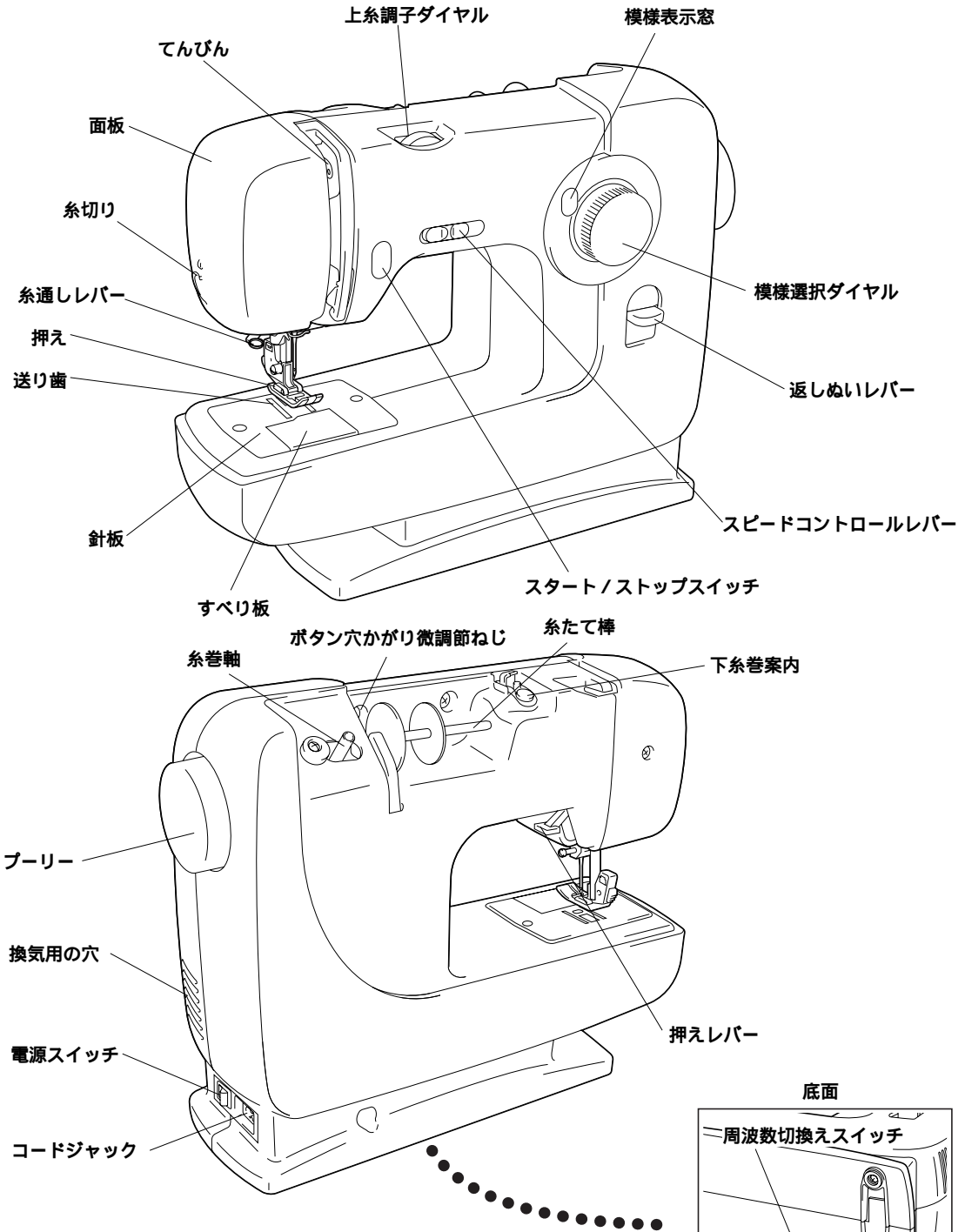


まつりぬい押え
部品コード X59372-051

仕様表

項目	仕様
本体寸法	幅33.9×高さ27.2×奥行12.3(cm)
製品質量	4.3kg
ぬい速度	毎分220~500針
使用ミシン針	家庭用ミシン針(HA×1)
定格電圧/消費電力	100V/25W 50/60Hz
ランプ消費電力	100V/6W

各部の名称



取扱説明書上の図は現物と多少異なることがあります。

ぬう前の知識

電源コード

▲ 警告

⊘ 一般家庭用電源AC100V電源以外では、絶対に使用しないでください。
火災・感電・故障の原因となります。

⚡ 以下のようなときは電源を切り、電源プラグを抜いてください。
火災・感電・故障の恐れがあります。

- ⊘
- ・ミシンのそばを離れるとき
 - ・ミシンを使用したあと
 - ・運転中に停電したとき

▲ 注意

延長コードや分岐コンセントを使用したたこ足配線はしないでください。
火災・感電の原因となります。

濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。
感電の原因となります。

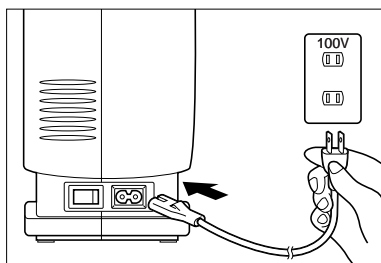
⊘ 電源コードを抜くときは、電源スイッチを切って、必ずプラグを持って抜いてください。
電源コードを引っ張って抜くとコードが傷つき、火災・感電の原因となります。

⚡ 電源コードを傷つけたり、破損したり、加工したり、無理に曲げたり、引っ張ったり、ねじったり、たばねたりしないでください。また、重い物を載せたり、加熱したりすると電源コードが破損し、火災・感電の原因となります。

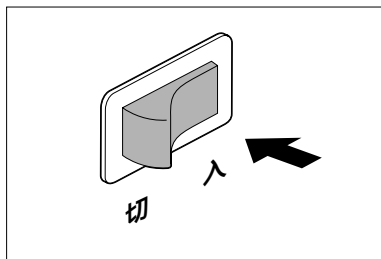
⊘

電源コードまたは電源プラグが破損したときは、ミシンの使用をやめてお近くの販売店または、ブラザーのサービスステーションにて修理をお受けください。

長時間ご使用にならないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。
火災の原因となります。



1 付属のコードを本体右側面のジャックに差し込み、電源プラグをコンセントに差し込んでください。



2 電源スイッチを「入」の方に押ししてください。
電源が入ります。
同時にランプが点灯します。

3 電源を切るときは、電源スイッチを「切」の方に押ししてください。

模様選択ダイヤル

▲ 注意

⚠ 模様選択ダイヤルは、必ず針が布地から上がっていることを確認してから回してください。針が布地に刺さったまま模様選択しますと、針が曲がったり、折れたりしてけがをする原因となります。

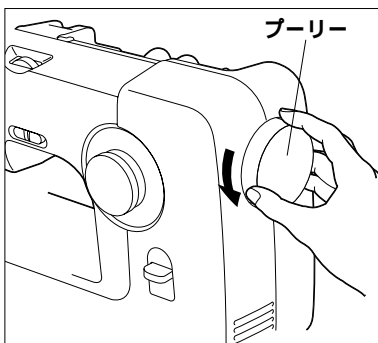


模様選択ダイヤルを回して、使用したい模様を模様表示窓に合わせてください。

模様選択ダイヤルを回す時は、押えレバーを上げてください。

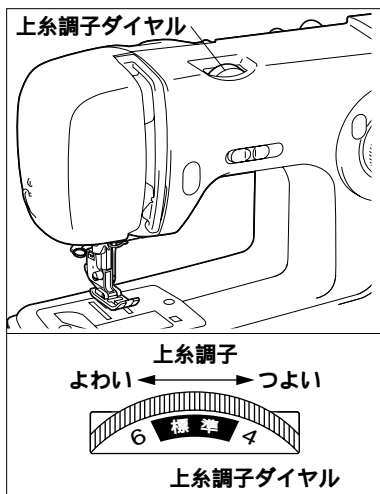
模様番号	b	ac	d	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
模様													

プーリー



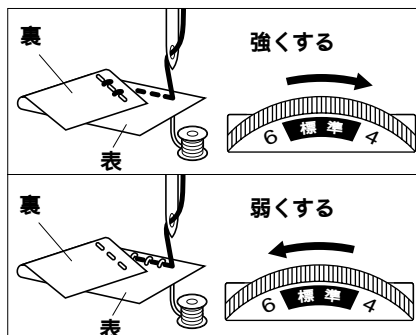
プーリーを回すと、針が上下します。
プーリーは、必ず手前側に回してください。

上糸調子ダイヤル



上糸調子ダイヤルの**標準**は、普通地(中厚地)をぬう場合の目安です。

布や糸の種類によって糸調子は変わりますので、実際にお使いになる生地の手切れで試し縫いをして、糸調子を調節してください。



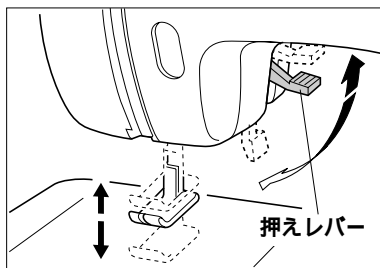
上糸が弱い場合

上糸と下糸の重なりが下(裏)にできます。上糸調子ダイヤルを右に回します。

上糸が強い場合

上糸と下糸の重なりが上(表)にできます。上糸調子ダイヤルを左に回します。

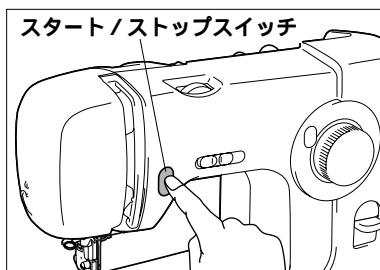
押えレバー



レバーを下げると押えが下がり、布地を押さえます。

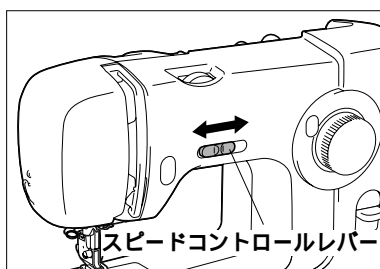
厚地の重ねぬいなど布地を入れにくいときは、レバーをさらに押し上げて入れます。

スタート/ストップスイッチ



スイッチを押すとスタートし、もう一度押すとストップします。

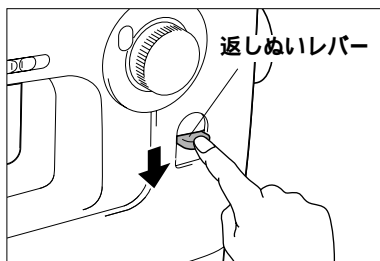
スピードコントロールレバー



初心者の方はミシンになれるまで“おそい”でお使いください。



返しぬいレバー



レバーを下げている間は返しぬいを行います。

返しぬいをするときは、スピードコントロールレバーを“おそい”にしてください。

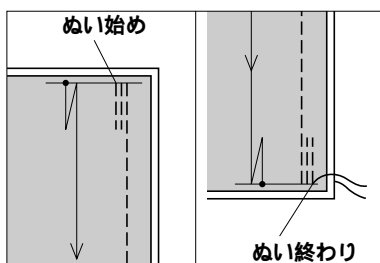
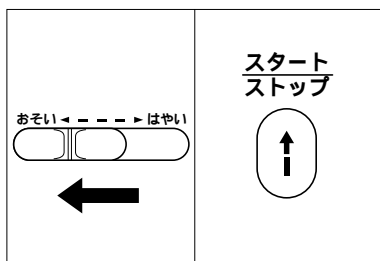
返しぬいの仕方

ぬい始めに返しぬいをする場合

1. スピードコントロールレバーを“おそい”にします。
2. スタート/ストップスイッチを押してミシンをスタートします。
3. 3~5針ぬったら返しぬいレバーを下げ、返しぬいをします。
4. ぬい始めの位置まで返しぬいをしたら、返しぬいレバーから手をはなしてください。再びぬい始めます。

ぬい終わりに返しぬいをする場合

1. ぬい終わりの近くまでぬったら、スピードコントロールレバーを“おそい”にします。
2. ぬい終わりの位置で返しぬいレバーを下げ、返しぬいをします。
3. 3~5針返しぬいをしたら、返しぬいレバーから手をはなし、スタート/ストップスイッチを押してミシンをストップします。



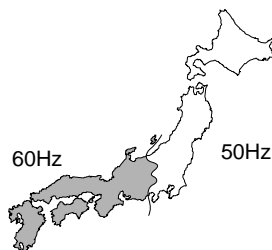
電源周波数の切換え方法

▲ 注意

- 必ず、電源を切ってから行ってください。万一、スタート/ストップスイッチなどが押されるとミシンが作動してけがの原因となります。

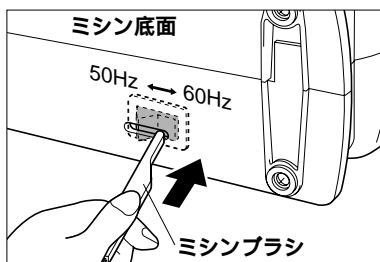
このミシンは、出荷時に電源AC100V 50Hz地域用に調整されております。

電源AC100V 60Hz地域にてご使用の際は、電源周波数切換え方法に従い、電源周波数の切換えを行ってください。



ミシン底面の周波数切換えスイッチ用のみぞに付属のミシンブラシの柄を図のように差し込み、スイッチを切換えます。

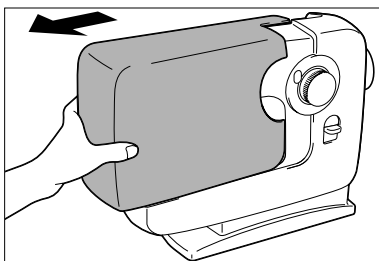
- ・ 電源AC100V 60Hz用にするときは、60Hz側を押してください。



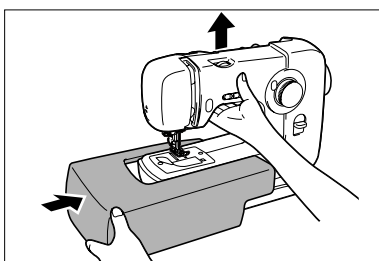
注意：先のとがった金属製のドライバーなどは使用しないでください。故障の原因となります。

補助テーブルのセットの仕方

本体カバーを補助テーブルとして使います。

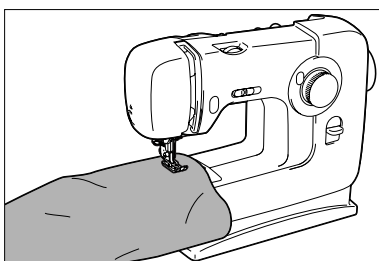


1 本体カバーを左へスライドさせて、外してください。



2 ミシンを少し持ち上げ、カバーの切り込み部分を上にし、ミシンのみぞにそってはめ込んでください。

フリーアーム



本体カバーをセットしなければフリーアームとして使えます。
ズボンの筒ぬいなどに便利です。

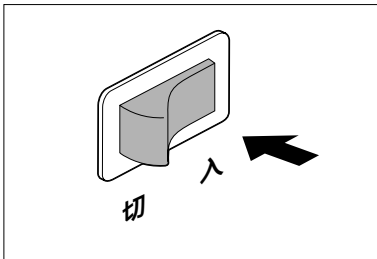
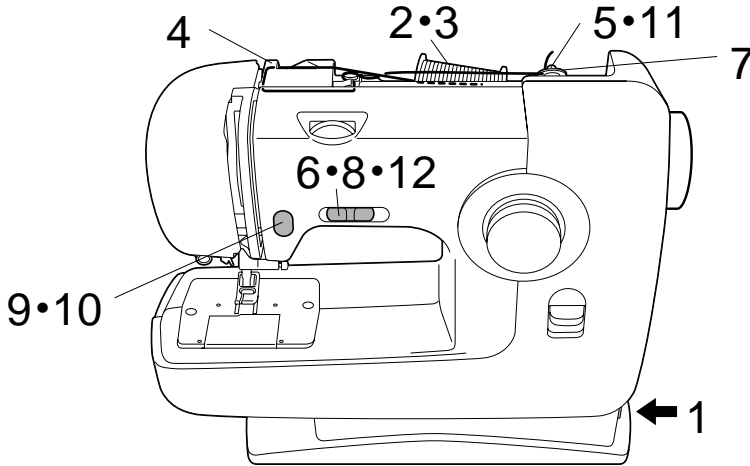
糸の通し方

ボビンの下糸巻き

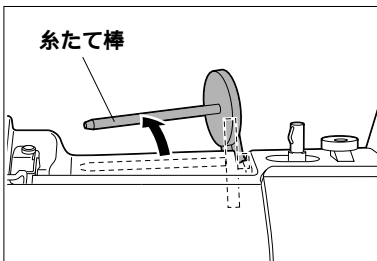
▲ 注意



必ず専用ボビン（部品コードX80309-001）をご使用ください。
他の製品をご使用されますとけが、故障の原因となります。

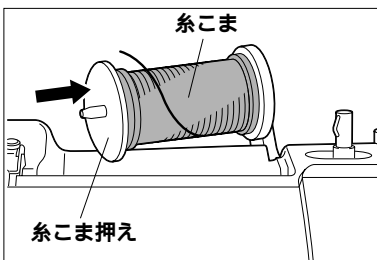


1 電源を入れてください。



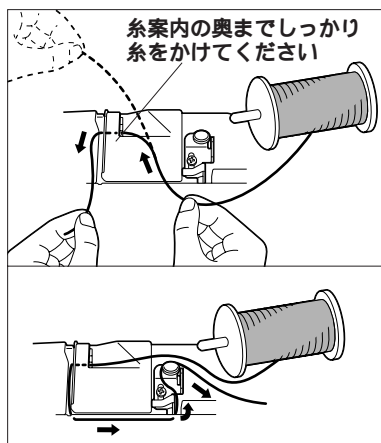
2 糸たて棒を後方に倒してください。

注意：糸たて棒は、必ず、後方に倒した状態で下糸巻きをしてください。倒さず使用すると糸がからまり、下糸巻きができません。

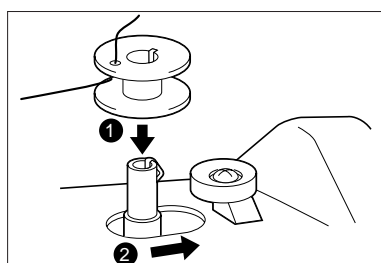


3 糸こまを糸が手前から出るように糸たて棒に差し込み、糸こま押えを奥までいっばいに押し込んでください。

注意：糸こまの向き、糸こま押えを正確にセットしないと糸たて棒に糸がからまる恐れがあります。

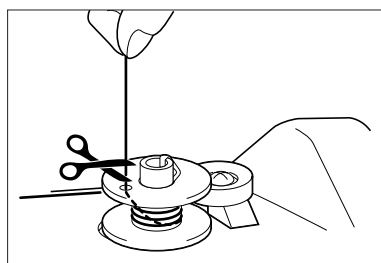


- 4 糸こま部の糸を右手で保持しながら左手で糸端を持ち、下糸巻き案内表示（破線）に従い番号通りにミソにそって順序よく糸を通してください。



- 5 内側からボビンの穴に糸を通し、ボビンのミソと下糸巻軸バネの位置を合わせて軸にセットし(①)、右に押してください(②)。

- 6 スピードコントロールレバーを「おそい」の方にスライドさせてください。

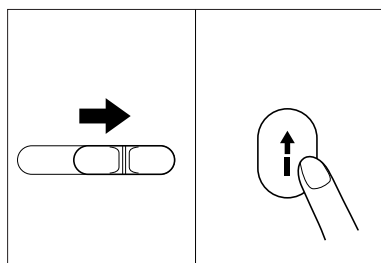


- 7 糸端を持ってスタート/ストップスイッチを押し、少し巻いたら（持っている糸が巻き糸で保持されるまで）、ミシンを一旦止めて糸端をボビンの外に出ないように切ってください。

▲ 注意



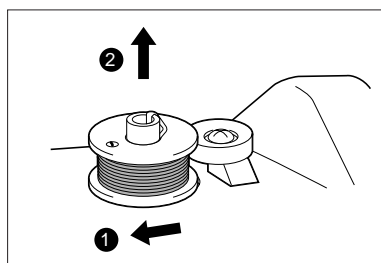
糸は少し長めに引き出し、まっすぐ上に伸ばして持ってください。糸が短かったり、たるんでいたたり、斜めに持っていたりすると、糸がボビンに巻き込まれ、けがの原因となります。



- 8 スピードコントロールレバーを「はやい」の方(➡方向)にスライドさせてください。

- 9 再び、スタートしてください。
巻き終わると自動的にボビンの回転は止まります。

- 10 ボビンの回転が止まったらスタート/ストップスイッチを押しミシンを止めてください。



- 11 下糸巻き軸を左に戻し(①)、ボビンを外してください(②)。

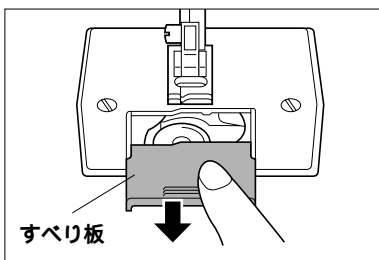
- 12 スピードコントロールレバーを「おそい」の方に戻してください。

下糸巻きをしたあと、次にミシンを運転するか、またはプーリーを手回しするとき、初めにクラッチのつながる音が発生しますが、トラブルではありませんのでご了承ください。

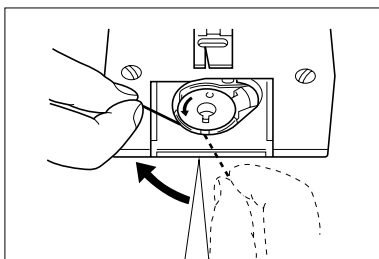
下系のセット

▲ 注意

必ず、電源を切ってから行ってください。万一、スタート/ストップスイッチなどが押されるとミシンが作動してけがの原因となります。



1 すべり板を手前に引いてはずします。



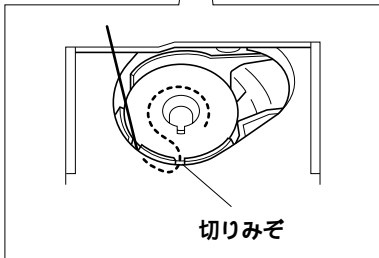
2 糸が左巻きになるようにボビンをセットし、糸を切りみぞへ通してください。

専用ボビンをお使いください。

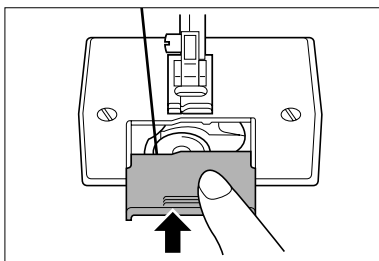
▲ 注意



ボビンは必ず正しい方向から糸が出るようにセットしてください。万一、ボビンを逆の方向にセットしますと糸調子不良になり、針が折れてけがをする原因となります。



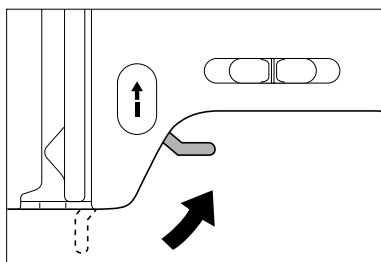
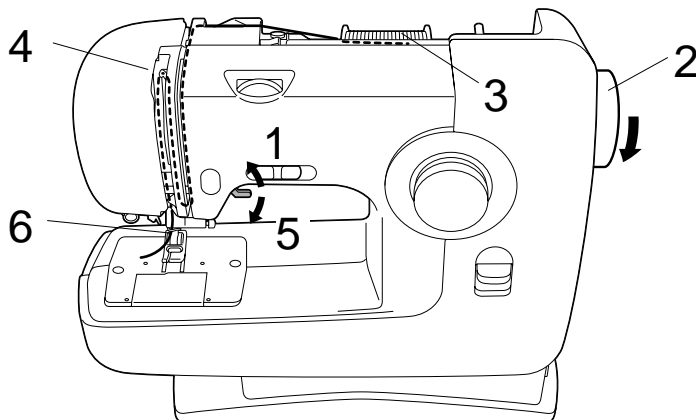
3 すべり板を針板のガイドに合わせ、奥まで押し込みます。



上糸のかけ方

▲ 注意

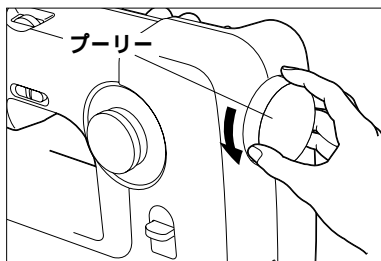
❗ 必ず、電源を切ってから行ってください。万一、スタート/ストップスイッチなどが押されるとミシンが作動してけがの原因となります。



▲ 注意

❗ 上糸通しは指示に従って正しく行ってください。糸が正しく通っていない場合、糸が絡んで針が折れけがの原因となる恐れがあります。

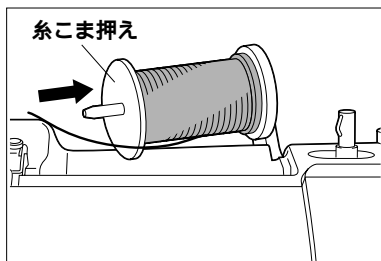
1 押えレバーを上げてください。



2 プーリーを手前に回して、てんびんをいっぱいまで上に上げてください。

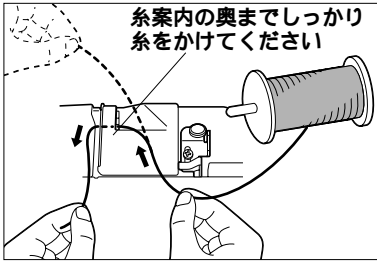


プーリーの“しるし”を真上の位置にした時が糸かけが出来る位置の目安になります。

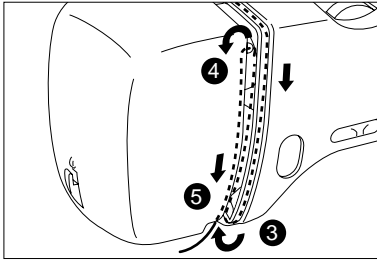


3 糸たて棒を後方に倒し、糸が手前から出るように糸こまをセットしてください。

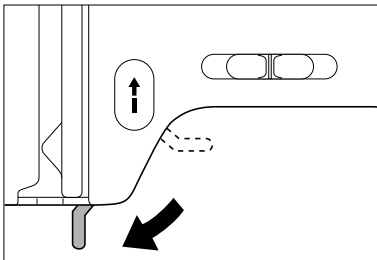
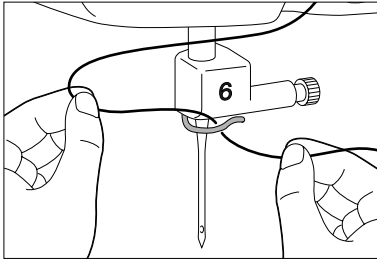
注意：ミシンをお使いになるときは、必ず、糸たて棒を後方に倒した状態でご使用ください。



4 糸こま部の糸を右手で保持しながら左手で糸端を持ち、上糸かけの案内表示（実線）に従い番号通りにミゾにそって順序よく糸を通してください。

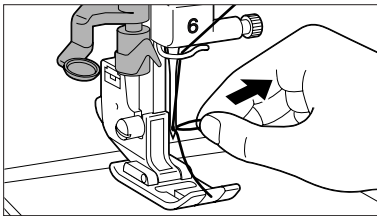
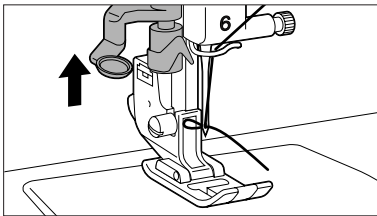
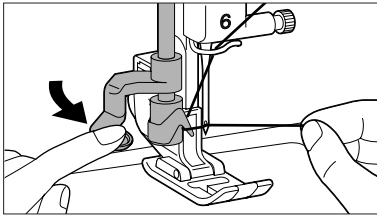
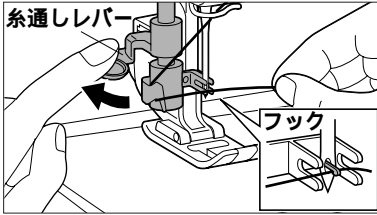
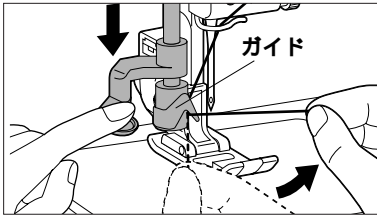


左手で糸を保持し、右手で糸掛けを行うと糸掛けがしやすくなります。



5 押えレバーを下げてください。

6 針に糸を通してください。



糸通し装置の使い方

注意： 糸通し操作中、指や手が操作スイッチにふれないように注意してください。
糸通し装置はミシン針11～16番の範囲以内でご使用ください。
針と糸の適正な組み合わせは早見表（P.2）を参照してください。

- ① 上糸をガイドにかけ、糸通しレバーを人差し指で止まるまで下げます。（糸は右側へ持っていきます）
- ② 糸通しレバーを後ろへ回して針穴にフックを入れたあと、糸を下からすくうようにしてフックにかけます。
糸を手前に引き、フックにかかっているか確認します。
- ③ 糸を軽く持ったまま、糸通しレバーを手前にもどします。

- ④ 糸と糸通しレバーを同時に離します。
フックが糸を針穴に通します。

- ⑤ 通した糸を後ろ側に引き出してください。

注意： 無理に引っ張って針を曲げないようにしてください。

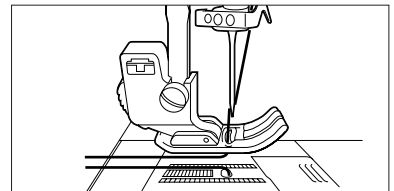
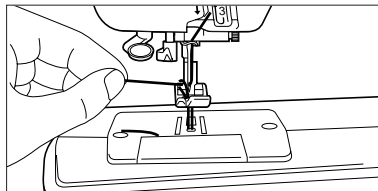
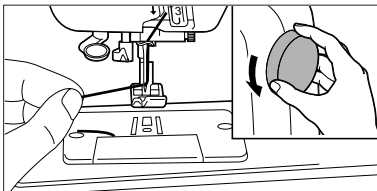
7 糸は押えの下を通してミシンの後ろ側に5cmほど引き出しておいてください。

下糸の引き出し方

▲ 注意

! 必ず、電源を切ってから行ってください。万一、スタート/ストップスイッチなどが押されるとミシンが作動してけがの原因となります。

- ① 上糸を軽く持ち、プーリーを手前にゆっくり1回転させ、針を上げます。
- ② 上糸を引き上げて、下糸を引っ張り出します。
- ③ 上糸・下糸を押えの下にして後ろへ出しておきます。



ぬってみましょう

基本操作

▲ 注意

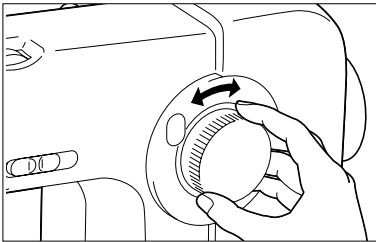
ミシンの操作中は、針の動きに十分注意を払ってください。また、針、プーリー、天びんなどすべての動いている部品に手を近づけないでください。けがの原因となります。



縫製中、布地を無理に引っ張ったり、押ししたりしないでください。けがの原因となります。

曲った針は絶対に使用しないでください。針が折れてけがをする原因となります。

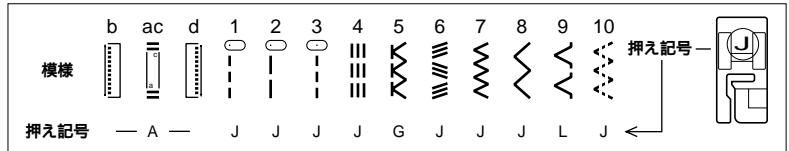
押えは各模様に適した押えを使用してください。押えをまちがえますと、針がぶつかり、折れたり、曲がったりして、けがの原因となります。



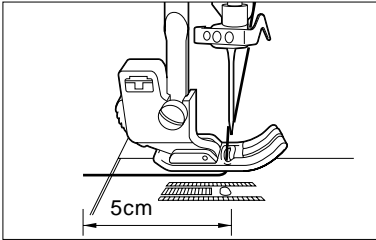
1 押えを上げ、模様選択ダイヤルで模様を指定します。

2 指定した模様に合わせて、押えを付け替えます。

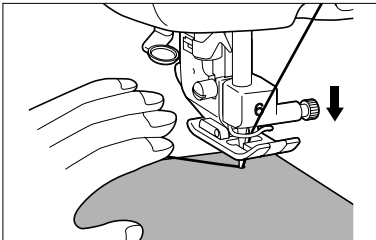
P.18「押えの付け替え方」を参照してください。



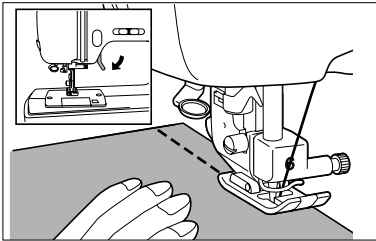
3 押えの下に布地をセットし、上糸を押えの下に通して後ろへ5cmほど引き出しておいてください。



4 糸と布地を左手で押え右手でプーリーを回してぬい始めの位置に針をさしてください。



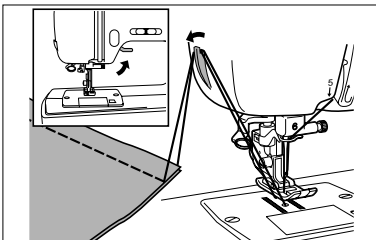
5 押えを下げ、スタートします。
手はかるく布地に添えます。



6 再びスタート/ストップスイッチを押してストップします。

7 針が完全に止まったら、押えを上げて布地を取り出し、糸を切ってください。

ぬい始め、ぬい終わりに返しぬいをする時は、P.8「返しぬいの仕方」を参照してください。



角をぬう場合

左基線の直線でぬい、角まできたら一旦ミシンを止め、プーリーを回して針を下げます。押えを上げ、針を軸にして布地を回してぬい始めます。

0.5cm以下のステッチをぬう場合は角部にしつけ糸をつけ、方向をかえたら糸を後ろへ引っ張りながらぬいます。

カーブをぬう場合

ぬい目を布端と平行になるようにミシンを止めて少しずつ布地の向きを変えながらぬいます。

段部をぬう場合

手で布送りを助けながら、布地を倒したい方向にぬいます。

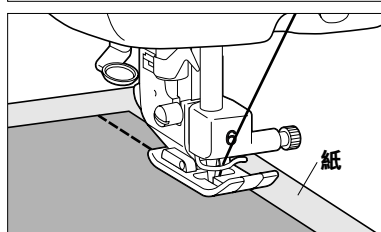
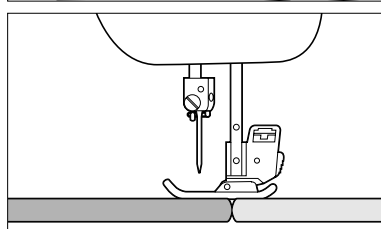
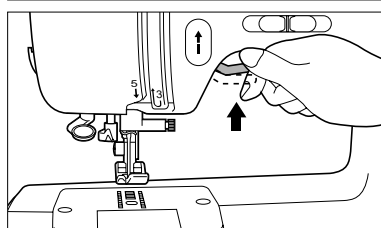
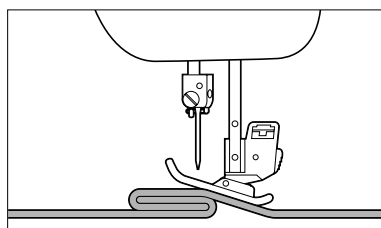
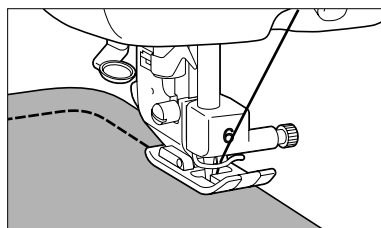
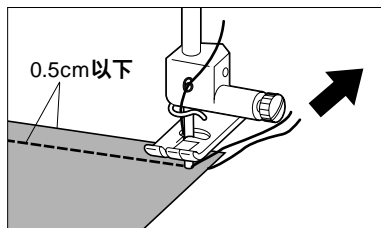
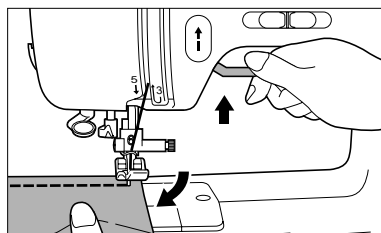
厚地をぬう場合

押えレバーをさらに上げると、押えがもう一段上がり、布地が入れやすくなります。

ぬい始めに布地が送らないときは押えの後ろに同じ厚さの布地をおいてぬうと、スムーズにぬうことができます。

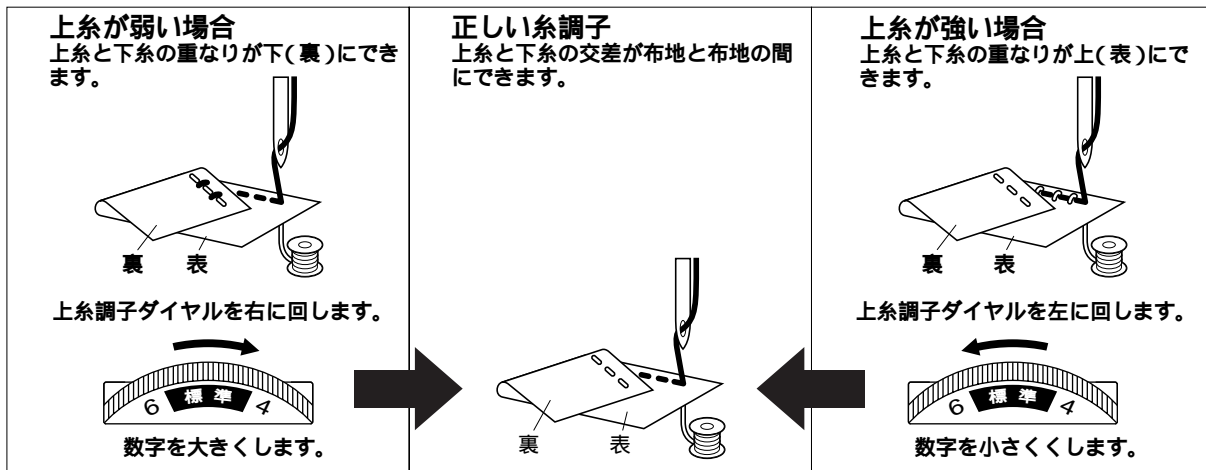
薄地をぬう場合

布地の下に薄い紙をしいてぬうと、ぬいやすいです。



糸調子

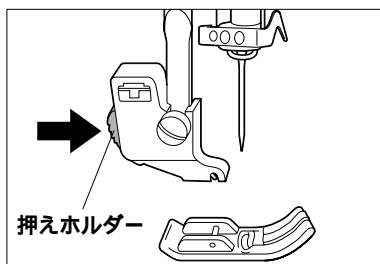
上糸調子ダイヤルの**標準**は、普通地(中厚地)をぬう場合の目安です。布や糸の種類によって糸調子は変わりますので、実際にお使いになる生地の端切れで試し縫いをして、糸調子を調節してください。



押えの付け替え方

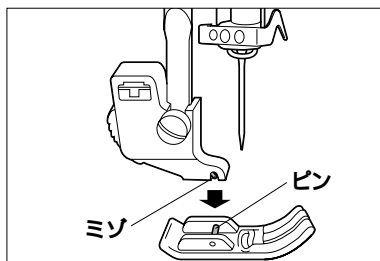
▲ 注意

必ず、電源を切ってから行ってください。万一、スタート/ストップスイッチなどが押されるとミシンが作動してけがの原因となります。



取りはずし方

- 1 電源を切り、プーリーを回して針を上げてください。
- 2 押えレバーを上げてください。
- 3 押えホルダーのボタンを押してください。



取り付け方

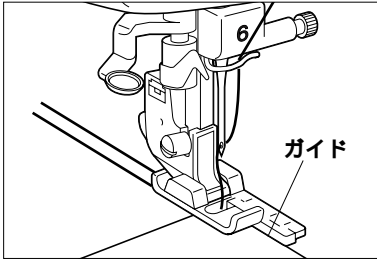
押えのピンを押えホルダーのミソの位置に合わせて押えレバーを下げてください。

押えは各模様に適した押えを使用してください。
(P2「ぬい方早見表」参照)

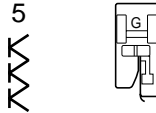
裁ち目かがり押えの使い方

▲ 注意

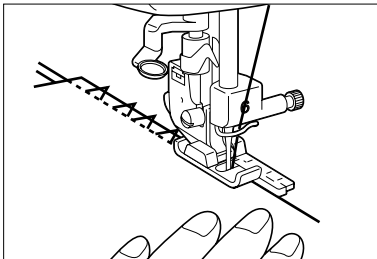
⊘ 模様に適した押えをご使用ください。誤った押えを使用すると、針が押えにあたって折れ、けがの原因となります。



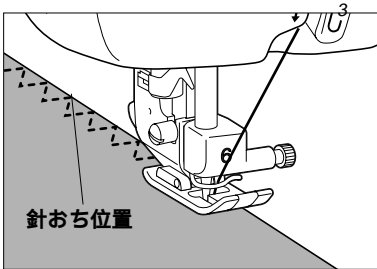
<G> 押えに付け替え、模様番号<5>を指定します。



1 押えのガイドに布端が合うように布地をセットします。



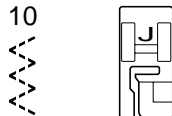
2 ぬい始めたら、布端がガイドに合うように手を添えます。
裁ち目かがりのぬい上がりは、素材により上糸と下糸の重なりがわずかに下(裏)に出る場合があります。



のびる布地の場合の裁ち目かがり

のびる布地の場合には、模様番号<10>を指定し、押えは<J>を使用します。

針を布端より少し外側に落としながらぬってください。

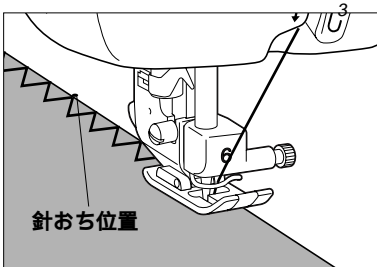
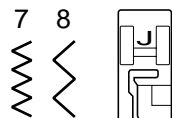


ジグザグ模様の場合の裁ち目かがり

裁ち目かがりとして広範囲に使用できます。

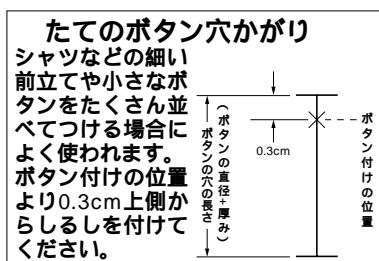
模様番号<7>または<8>を指定し、押えは<J>を使用します。

針を布端より少し外側に落としながらぬってください。

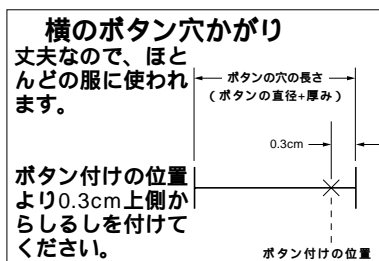


ボタン穴かがり押えの使い方

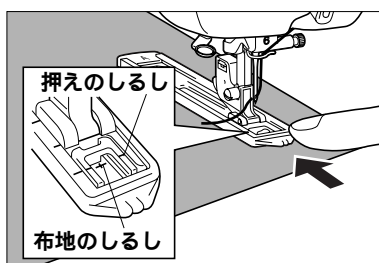
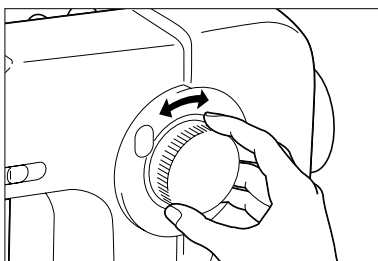
ぬうときには、必ずぬうものと同じ布地(残り布)で試しぬいをしてからぬってください。



1 ボタン穴かがりをしたい位置にしるしをつけてください。



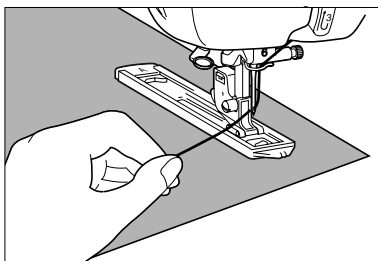
2 ボタン穴かがりは、a b c dの順に行いますので、模様選択ダイヤルで模様番号<ac>にセットしてください。






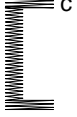

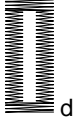


3 ボタン穴かがり押え<A>に付け替え、布地を入れ、押えを後ろいっぱい押し、布地のしるしに押えのしるしを合わせて、押えを下げてください。

4 上糸をかるく持って、スタートしてください。

布地に手をかるく添えてください。



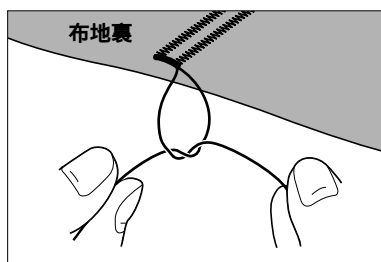
模様番号	ぬい目
	
	
	
	

5 5~6針かん止めをし、針が左側へおちたときにストップさせてください。

6 模様番号にセットし、しるしまでぬい、針が左側へおちたときにストップさせてください。

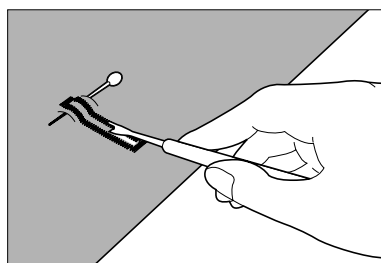
7 模様番号<ac>にセットし、5~6針かん止めをし、針が右側へおちたときにストップさせてください。

8 模様番号<d>にセットし、しるしまでぬい、針が右側へおちたときにストップさせてください。

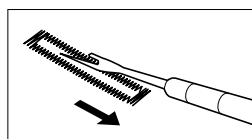


9 糸を少し長めに切ります。

10 縫い目のほつれを防ぐため、上糸の端を布地裏にだし、下糸と結んでおいてください。



11 かん止めの内側にまち針を打ち、ぬい目を切らないように、リッパーで切り開いてください。

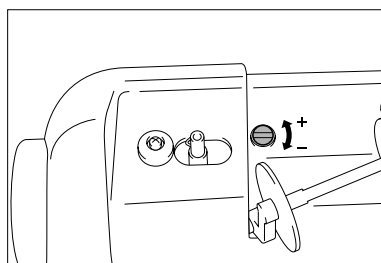


リッパー背で切りみぞにスジをつけてからリッパーで切り開くと切りやすくなります。

▲ 注意



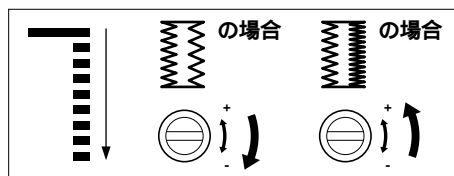
リッパーで穴を開けるとき、リッパーの先方に手や指を置かないでください。すべったときにけがをする原因となります。



ボタン穴かがり微調節ねじ

ボタン穴かがりの左右のぬい目長さは出荷時に調整してあります。使用される布と糸の組み合わせにより左右の縫い目長さが異なる場合がありますので、その時はボタン穴かがり微調節ねじを回して調節してください。

ぬい目右側だけの調節ねじです。
左側のぬい目と比べて調節してください。

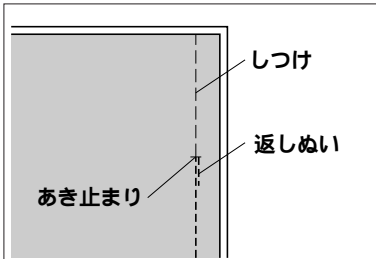


片押え(別売)の使い方

片押え<1>は、部品コード(103561-002)をご使用ください。

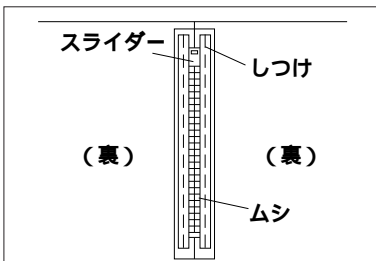
▲ 注意

- ぬい始める前に針おち位置を確認してください。針おち位置が適切でないと、押え足に針があたって折れ、けがの原因となります。

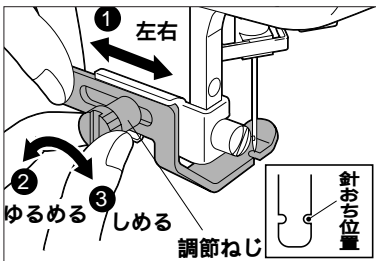


ファスナー付け(つき合わせ)

準備：<J>押えを取り付け、布地の中表に合わせてあき止りまでは地ぬいをし、あきの部分(ファスナーを取り付けるところ)にはしつけをしてください。

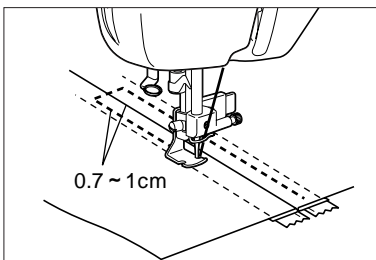


- 1 ぬい代を割り、ぬい目のラインにファスナーのムシの中心を合わせてしつけをしてください。



- 2 <1>押えに付け替え、模様番号<3>を指定します。
押えの後ろの調節ねじで針おち位置が、押えの右側(図参照)になるように押えの位置を調節してください。

(ファスナーの左側をぬうときは押えの右側に、
ファスナーの右側をぬうときは押えの左側に、
針おち位置がくるように押えの位置を調節します。)

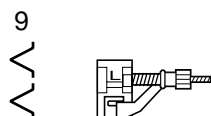
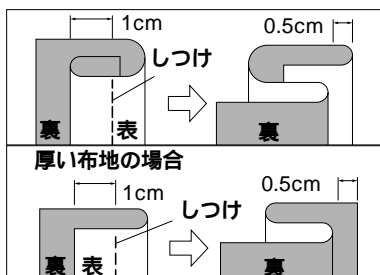


- 3 表からミシンをかけてしつけを取ってください。

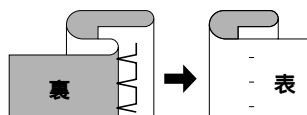
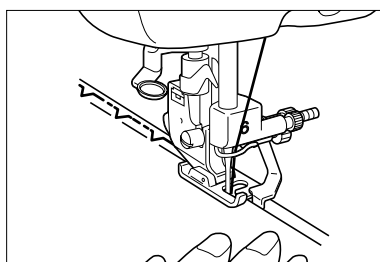
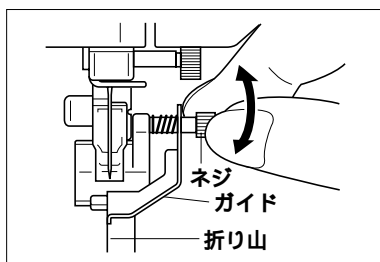
まつりぬい押え(別売)の使い方

まつりぬい押え<L>は、部品コード(X59372-051)をご使用ください。

<L>押えに付け替え、模様番号<9>を指定します。

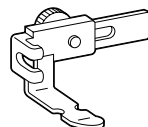


- 1 布地を左図のように折ってください。
しつけをしっかりとってください。
- 2 左の針おちがわずかに折り山にかかるように、布地をセットしてください。
- 3 折り山に押えのガイドを合わせてください。
<L>押えのツマミを回して、折り山に押えのガイドがピッタリあたるように調節してください。
- 4 ぬい始めたら、折り山が押えのガイドに添うように布地に手を添えてください。
- 5 表に戻します。

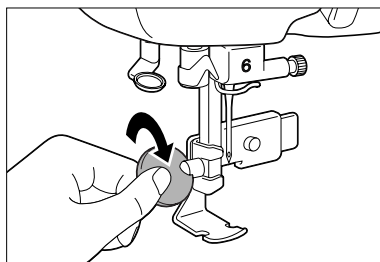
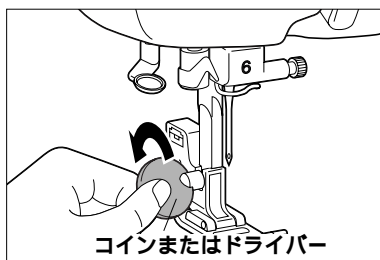


片押え(別売)の取り替え方

片押え<1>
(別売)



- 1 電源を切り、プーリーを回して針を上にごください。
- 2 押えホルダーのねじを外してください。
- 3 押えを取り替え、ねじをしっかりと締めつけてください。

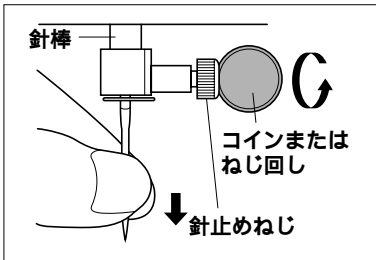


ミシンを大切に

針の交換

▲ 注意

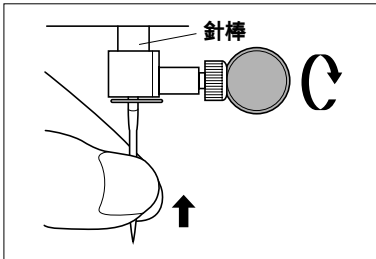
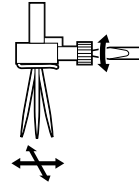
- ❗ 必ず、電源を切ってから行ってください。万一、スタート/ストップスイッチなどが押されるとミシンが作動してけがの原因となります。
- ⊘ 曲がった針は絶対に使用しないでください。針が折れてけがの原因となります。



1 電源を切り、針を上げ、押えを下げてください。

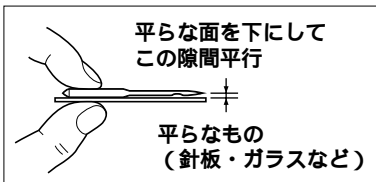
2 針止めねじをゆるめて針を抜いてください。

注意：針止めねじをゆるめたりしめたりするときは、針棒を前後・左右に大きな力を加えないでください。故障の原因となります。



3 新しい針の平らな面をうしろ側にして、針抱きの上側に当たるまでいっぱい押し込んでください。

4 針止めねじをしっかりとしめてください。

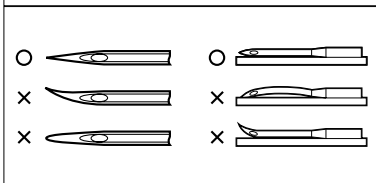


正しい針の見分け方

平らな物(針板、ガラス板など)に針の平らな面を合わせ、すき間が平行である物をご使用ください。

針先が曲がったり、つぶれているものは使用しないでください。

針は家庭用ミシン針(HA×1)をご使用ください。

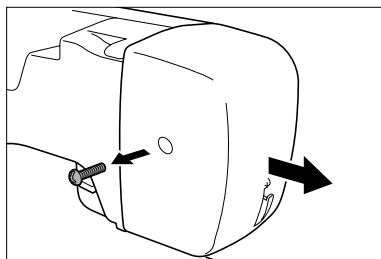


ランプの交換

▲ 注意

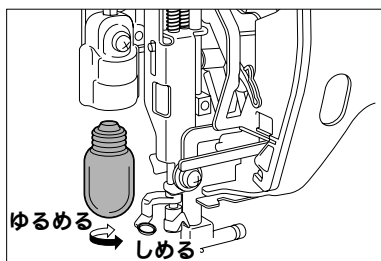


ランプが切れたときの交換はガラス部分が冷えてから行ってください。
やけどの原因となります。



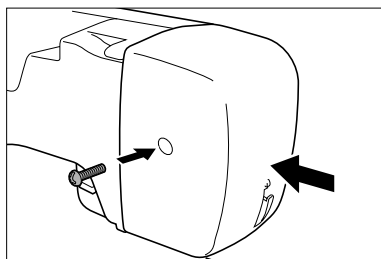
1 電源を切ってください。

2 ミシンの裏側にあるネジをドライバーで外して面板を外してください。



3 ランプを矢印の方向に回して外し、新しいランプを取り付けてください。

注記：ランプは必ず専用のものをご使用ください。
他のランプは絶対に使用しないでください。
専用ランプ(100V, 6W)は最寄りのプラザー販売店でお
買い求めください。(部品コードXA7713-050)



4 面板を取り付け、ねじをドライバーでしっかりしめてください。

お手入れ

本体表面の汚れの掃除

▲ 注意



必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。
けがまたは感電の原因となります。

本体表面の汚れを取るときは、中性洗剤を薄めて布に浸し、固くしぼってふきとってください。
汚れを取った後は、乾いた布でふきとってください。

注意：ベンジン、シンナー、みがき粉は使用しないでください。
変色や変形の原因となります。

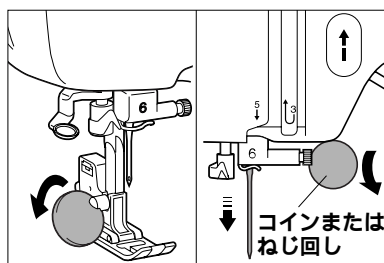
かまの掃除

ほこりがたまると縫製不良になる場合があります。
いつもきれいにしておきましょう。

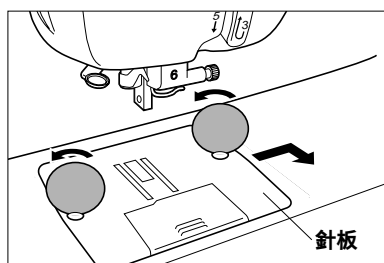
▲ 注意



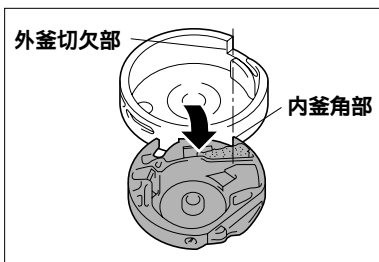
必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。
けがまたは感電の原因となります。



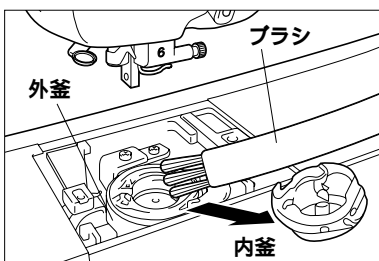
1 電源スイッチを切り、押えホルダーと針を外してください。



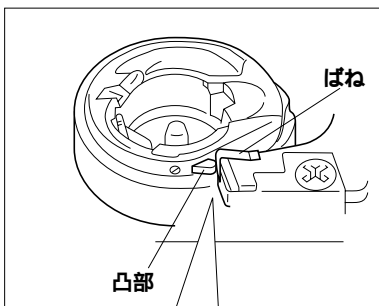
2 ネジをゆるめて針板を外してください。



3 プーリーを手前に回し、外釜切欠部と内釜角部の位置を合わせて内釜を取り外してください。

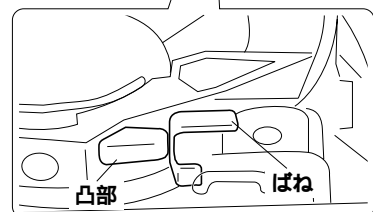


4 付属のブラシや掃除機で外釜とその周辺の糸くずを取り除いてください。



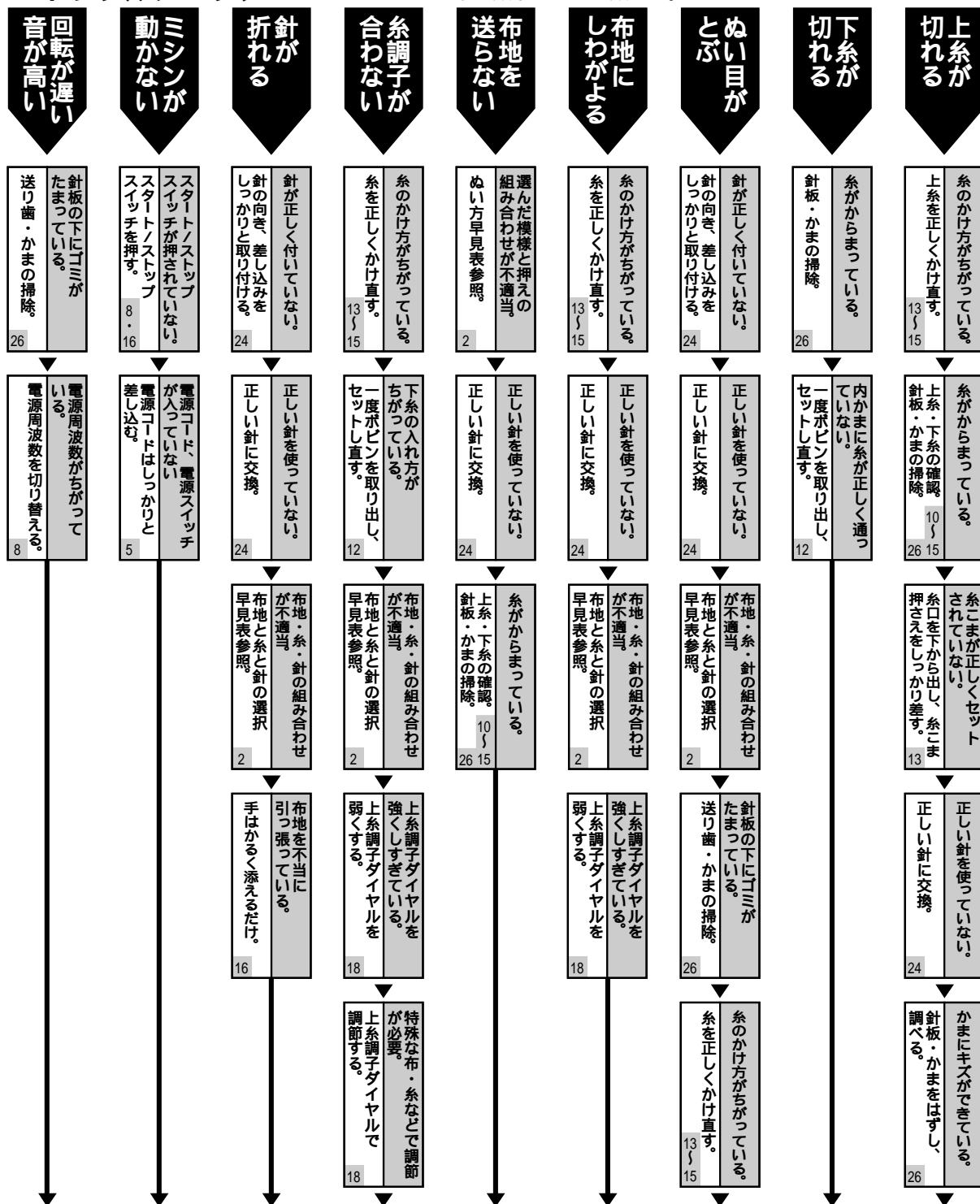
5 内釜を外したときと同じ位置に外釜切欠部がきていることを確認し、内釜の凸部とバネを合わせて内釜を取り付けてください。

6 針板をはめてネジをしめてください。



ミシンの調子が悪い場合は、まず次の原因を確かめましょう。
左下の数字はページ数です。

トラブルチェック



もし、それでも直らない場合は、お買い上げの販売店または最寄りのプラザー販売店にお申し付けください。

注意：運転中に停電が発生した場合

電源スイッチを切って電源プラグを抜いてください。
再運転される場合は、運転の手順にもとづき正しく行ってください。

目次

ぬい前の知識

糸の通し方

ぬってみたい

ミシンを大切に

アフターサービス

- お買い上げの際、販売店でお渡しする保証書は大切に保管してください。
- 無料保証期間は、お買い上げ日より1年間です。(詳しくは保証書をご覧ください。)それ以後の修理については、お買い上げの販売店、または最寄りのブラザー販売店にご相談ください。
- 当社はこのミシンの補修用性能部品を、製造打ち切り後最低8年保有しています。
・性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。
- アフターサービスについてご不明の場合は、お買い上げの販売店、または下記の〈お客様相談室〉へお問い合わせください。

お客様相談室

北海道事業所 〒060-0063 札幌市中央区南三条西3-2-2 TEL:(011)261-6631 FAX:(011)221-3974
東北事業所 〒980-0811 仙台市青葉区一番町2-3-10 TEL:(022)227-8877 FAX:(022)227-8205
東京事業所 〒104-0031 東京都中央区京橋3-3-8 TEL:(03)3281-4204 FAX:(03)3274-0546
中部事業所 〒467-0851 名古屋市瑞穂区塩入町11-5 TEL:(052)824-3193 FAX:(052)824-6193
関西事業所 〒550-0012 大阪市西区立売堀4-4-2 TEL:(06)6531-4670 FAX:(06)6543-9127
中四国事業所 〒730-0021 広島市中区胡町4-28 TEL:(082)240-3762 FAX:(082)240-1478
九州事業所 〒812-0011 福岡市博多区博多駅前2-3-12 TEL:(092)431-6566 FAX:(092)481-7268
本社お客様相談室
〒467-8577 名古屋市瑞穂区苗代町15-1 TEL:(052)824-3125 FAX:(052)824-3031

◎ブラザー製品についてのご意見、ご要望がございましたら、お買い上げの販売店または上記の〈お客様相談室〉へご連絡ください。
※上記の電話・FAX番号および住所は、都合により変更することがありますのでご了承ください。

ブラザー工業株式会社

取扱店

名古屋市瑞穂区苗代町15-1 〒467-8561